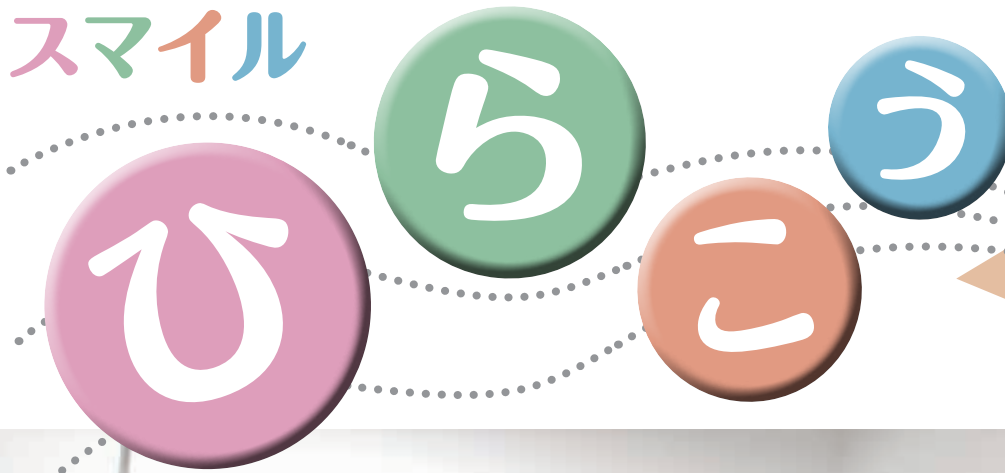


スマイル



2016

4



特集

北河内病診連携懇談会

新任医師紹介／放射線技師から③／連携医療機関紹介 vol.12／副院長のひとり言⑫／
Information

北河内病診連携懇談会

先生方には平素より当院血液内科診療にご協力いただき誠にありがとうございます。去る1月16日に北河内病診連携懇談会を開催させていただき、一般講演として竹川菜美子薬剤師が「血液内科における薬剤師の役割」、当方より「当院血液内科の取り組み」、特別講演として京都大学大学院医学研究科血液・腫瘍内科学教授高折晃史先生をお招きし「血液内科の現状と未来」をお話していただきました。

竹川薬剤師より、血液内科病棟に常駐し、看護師とともに毎日の患者様の薬剤管理・指導を行っていること、そして治療薬に関する情報や副作用などを患者様だけでなく他職種にも説明し、チームとして安心・安全な治療ができるよう努めていることをお話させていただきました。また、薬剤師がレジメン名・薬剤名・投与時間/期間・副作用を記載した化学療法レジメンチェックシートを作成し、そのチェックシートを看護師と共有し、患者様にも治療の進行状況が把握できるようにサポートしていることをお話させていただきました。そして、外来患者においても今後、トレーシングレポートを活用することによって退院後当院の外来診療や紹介元の医療機関へ戻られた後も、引き続き保険薬局の方と連携して安心・安全な薬物治療を提供していくことを予定しているとお話させていただきました。

高折先生からは、血液内科の現状として全国的に血液内科を有する病院が少なく、この北河内地域でも非常に少なく当院が血液内科を担う中核病院であることを話されました。そして近隣の先生方がどのような症状・検査データを認めたら血液内科に紹介すべきかのチェックポイントを話されました。また、治療の多様性として多発性骨髄腫を例に挙げ、難治性造血器腫瘍と考えられてきた多発性骨髄腫の病態が解明されるにつれて、新規治療薬としてサリドマイド、レナリドミド、ボルテゾミブなどが開発され治療成績が向上し、今後は臨床試験が終了したカルフィルゾミブ、イグザゾミブ、臨床試験中のエロツズマブ、グラツムマブといった次世代治療薬が使用可能となり、その治療成績はさらに改善していく可能性があることを話されました。最新の話題としては、再生医療の実現化としてiPS細胞技術を使っでの血小板製剤の開発の話がされました。国内において現在、血小板は足りていますが、10年後には不足すると言われていました。

ヒトiPS細胞から血小板を生み出す細胞である巨核球を誘導し大量に血小板を生産する方法を確立したこと、数の供給と一定の品質・安全性を維持しての供給という課題はあるものの医療現場での実用化を目指している研究の話がされました。

当方からは前半、先生方よりご



紹介を承りました患者様の症例報告を診断、治療経過、転帰を含めてお話させていただきました。後半は当科の取り組みとして白血病、骨髄異形成症候群、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの造血器腫瘍、様々な貧血疾患、血友病や播種性血管内凝固症などの凝固異常、血小板減少性疾患、血球貪食症候群など希な疾患を対象に、NASA 規格クラス Class1000 の無菌個室4床、Class10000の無菌室8床で治療を行っていること、そして通常の化学療法では治療が難しい場合は、血縁者間移植、臍帯血移植といった同種造血幹細胞移植も行っていることを紹介させていただきました。当科の特徴として、看護師・薬剤師・臨床検査技師・理学療法士・栄養士・医事課職員など様々な医療スタッフと連携して患者様が治療に専念できるように、より質の高い医療を心がけてチーム医療を行っていることを紹介させていただきました。そして患者様だけでなく、そ

のご家族も安心していただけるように患者様の回復に寄与できる最善の治療に取り組んでいることも紹介させていただきました。その取り組みの一つとして、抗癌剤治療を受けている患者様へ早期からリハビリテーションを導入し、身体機能や QOL を維持し、在院日数の短縮や早期の社会復帰を目指せるようにしています。高折先生がどのような時に血液内科に紹介すべきか御講演されましたが、白血球数や赤血球数や血小板数の異常を認めた場合、持続する発熱やリンパ節腫大を認めた場合、高齢者の骨痛・腎機能異常を認めた場合などは血液疾患が疑われますし、NSIDS が効かない全身骨痛は白血病の可能性もありますのでご紹介いただければ迅速に対応致します。輸血を必要としない鉄欠乏性貧血や安定した特発性血小板減少性紫斑病の患者様は、御紹介いただきました先生方に今後のフォローをお願いすることとなりますが、その時はご協力いただけ

れば幸いです。また、終末期、患者様が在宅医療をご希望された場合は、近隣の先生方の往診などのご支援をいただければご家族との充実した時間に寄与できると考えておりますのでご尽力を承れば幸いです（もちろん、輸血などの対応は当科で対応致します）

当院は昨年11月、地域医療支援病院として承認されました。医療への貢献と奉仕を理念として地域における中核病院として、快適な療養環境と高度な医療を提供する方針です。当科も地域の先生方と連携を深めながら、地域連携推進の一翼を担えるように日々、努力していきたい所存ですので今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。



血液内科

上田 里美

今回北河内病診連携懇談会にて、血液内科における薬剤師の役割について発表しました。血液内科で使用される薬はハイリスクな薬も多く、患者さんへ安心・安全な薬物治療を提供するためには、薬剤師として治療薬に関する情報や副作用情報を他職種へ伝達し共有することが大切だと考えています。この役割を果たすための薬剤科での活動体制・内容について説明しました。

また今後の展望として、安心・安全な治療のサポートができるよう外来の患者さんにも今以上に介入していきたいと考えています。そのために“トレーシングレポート”の活用を試験的に開始いたします。トレーシングレポートとは主治医への報告が望ましい、あるいは副作用と思われる所見がある場合に、保険薬局からFAXを送ることにより医療機関間で情報を共有するための手段の1つとな

ります。これにより当院の外来診療や紹介元の医療機関へ戻られた後も、引き続き保険薬局の方と連携して患者さんに安心・安全な薬物治療を提供していきたいと思



薬剤科
竹川 菜美子

新任医師紹介



消化器外科
浅生 義人

4月から枚方公済病院外科に赴任致しました。前任施設（天理よろづ相談所病院）では、長く消化器外科手術、特に食道癌、胃癌、大腸癌、直腸癌の腹腔鏡手術や、消化器癌に対する化学療法を中心とした集学的治療を専門に行ってきました。また、急性腹症等の緊急手術も多く経験してきましたので、腹部救急疾患の面でも地域の外科診療のお手伝いができるのではと考えてお

ります。出来るだけ患者さんに納得していただける確かな医療、確かな手術を信条にしています。

癌治療は術後も長い経過でサポートを要します。患者さんの不安を和らげるためには、地域の先生方やコメディカルの皆様との密な連携が必須と考えています。今後はいろいろとお世話になりますが、何卒宜しくお願い申し上げます。



心臓血管外科
井上 和重

4月から枚方公済病院心臓血管外科に着任しました。卒業後30年に渡り、成人心臓血管外科、特に冠動脈バイパスを主として臨床に励んでいました。その経験からも心臓血管外科は外科医一人ではできないのではないかと思います。循環器内科はもちろん、麻酔科、看護師、臨床工学技士、薬剤師、臨床検査技師の助けがあって、初めて手術は上手いきます。幸い、枚方公済病院はしっかりした循環器内科があり、心臓センターとして機能しています。今後は症例ご

とに協力しあって、患者さんにとって最良の治療をさせていただくつもりです。また循環器疾患は慢性疾患であり手術後のフォローも重要なファクターです。これをすべて当院で行うことは不可能で、近隣の先生方の協力なくしては成り立ちません。近隣の先生方とは、協力し合って継ぎ目のない医療を心掛けていこうと考えています。今後とも、お急ぎの場合は電話等でも構いませんのでお気軽にご相談ください。

危機管理について

昨年のCT件数が先生方のおかげをもちまして過去最高の1万件を超えました！それに伴い造影の件数も急増しています。皆さまご存知のとおり造影検査には副作用の問題がついてきます。血管造影剤開発時のイオン性造影剤から非イオン性造影剤に代わり副作用の発現率は減ったものの、完全には無くなることはないので注意が必要です。副作用はかゆみなどの軽いものから心肺停止などの重篤なものまで様々です。完全に予知できる方法はないため、重篤な副作用に対応できる救急処置体制が整っている場所でなければ造影検査を行ってはならないと考えます。すべての検査に言える事ですが危機管理、リスクマネジメントが重要になってきます。

皆さんは危機管理とリスクマネジメントの違いをご存知でしょうか？私は、同じ意味の言葉として認識していましたが、その違いを知ることが重要で従来の危機管理だけでは企業は守れないという記事がありました。

危機管理とは、すでに起こってしまった事故等に対して、そこから受けるダメージをなるべく減らそうという行動。リスクマネジメントは、これから起こるかもしれない危険に対して、事前に対応しようという行動。簡単な例で言うと、外出するときに雨が降るかもしれないから、傘を持っていくのが「リスクマネジメント」雨が降ってからどこかで傘を購入するのが「危機管理」にあたるようです。このことから、何かが起きてから備える危機管理だけではなく、事前対策であるリスクマネジメントも同時に考えること、そして、その違いを理解することが重要だとわかります。当科では、リスクマネジメントの一環として前述した急変に備えるため救命講習を実施しています。その内容もCPA時では初期治療、絶え間ない胸骨圧迫が非常に重要となってきますので、より実践に近い形のシミュレーションを当科技師全員行っています。実際CT室での急変がその後に数件ありましたが、講習の効果があり切り抜けることができました。今後も継続して行っていきたいと思います。また、造影検査では造影剤投与前にも確認事項がありますのでしっかり確認していきたいと思います。検査を安全に終わらせるよう、そして起こってしまった急変等の事象に対しても重大な状態に至らぬよう心掛けて検査していきたいと思いますので、今後ともよろしくお願い致します。

最後に、造影検査の事前の注意事項を以下に示しますのでご一読ください。

●重篤副作用発現の危険因子

造影剤副作用歴	4倍（対副作用歴なし）
喘息	10倍（対アレルギー歴なし）
心疾患	3倍（対心疾患以外）
アレルギー歴 （喘息以外）	1.7倍（対アレルギー歴なし）

ヨード造影剤の添付文書に記載されている「禁忌」「原則禁忌」「慎重投与」

【禁忌】

- (1) ヨード又はヨード造影剤に過敏症の既往歴のある患者
- (2) 重篤な甲状腺疾患のある患者

【原則禁忌】

- (1) 一般状態の極度に悪い患者
- (2) 気管喘息の患者
- (3) 重篤な心障害のある患者
- (4) 重篤な肝障害のある患者
- (5) 重篤な腎障害（無尿等）のある患者
- (6) マクログロブリン血症の患者
- (7) 多発性骨髄腫の患者
- (8) テタニーのある患者
- (9) 褐色性細胞腫の患者及びその疑いのある患者

【慎重投与】

- (1) 本人又は両親、兄弟に発疹、蕁麻疹等のアレルギーを起こしやすい患者
- (2) 薬物過敏症の既往歴のある患者
- (3) 脱水症状のある患者
- (4) 高血圧の患者
- (5) 動脈硬化のある患者
- (6) 糖尿病の患者
- (7) 甲状腺疾患のある患者
- (8) 肝機能が低下している患者
- (9) 腎機能が低下している患者
- (10) 急性腎炎の患者
- (11) 高齢者
- (12) 幼・小児



診療放射線技師
椎葉 陽一

佐野内科

☑ 開業のきっかけ

大学での肝臓病研究が続けにくくなり、自分の方針で臨床が出来る開業を決めた。

☑ 毎日の診療に心がけていること

モットー。終末まで見とどける、縦断的生涯医療。かかりつけ患者入院時は、病室に訪問し、主治医と面談する(現在の開放型病院での共同診察と同様。但し、最近運転免許証返納、枚方公済病院へは行きにくくなり残念)、在宅終末期には往診する。訴えをよく聞き、出来るだけわかりやすく、時間をかけて説明する。

☑ 趣味

ゴルフ、旅行。腰痛のため、最近は国内旅行だけ。

☑ 枚方公済病院について

遠くても、いざという時、頼れる病院。高度の専門医療が出来るスタッフとその体制(各職種オンコールシステム)のお蔭で、深夜の大動脈解離、心筋梗塞患者が救命されました。地域のニーズを汲み取り、病院としても役割分担を実践する病院(循環器センター・ER室)。

診断根拠、治療方針を詳しく記載した診療情報を提供して下さる先生が多い。大変勉強にもなります。

気楽で、手際よい対応の地域医療連携室。新香里病院時代からよく出入りさせて頂いたお蔭で、気遣いなく頼める身近な連携室です。

☑ その他

枚方公済病院は、病診役割分担についても、地域医療をリードしてほしい。



佐野内科 院長 佐野 萬瑛壽先生

所在地：〒572-0831
大阪府寝屋川市豊野町 15-8
☎ 072-821-0022
診療科目：内科、消化器科、循環器科

連携医療機関紹介



このコーナーでは連携医の先生方をご紹介します。

庄野クリニック

☑ 開業のきっかけ

私は枚方市長尾町に生まれ、高校卒業までをここ枚方長尾で過ごしました。大学病院に在籍中より、いつかは地元長尾で地域の皆様のお役に立ちたいと考えておりました。大学病院退職後、寝屋川市の内科病院で経験を積み、5年前に心を決めこの地に開業しました。

☑ 毎日の診療に心がけていること

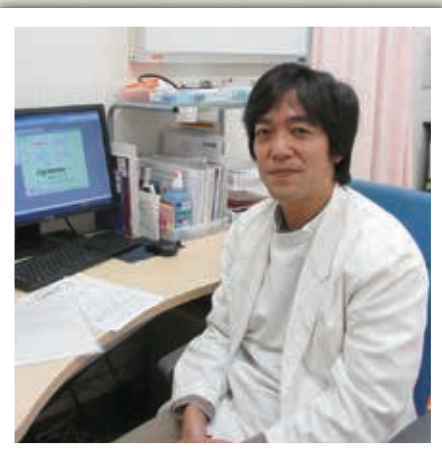
患者さんの生活の質(Quality of Life)を損なわない治療を目指しております。コミュニケーションを大切に、皆様に心から信頼していただけるクリニックを目指し、誠実な医療を行っていくことです。

☑ 趣味

釣りです。季節の旬な魚を釣り、美味しく食べる。クリニック関係者で「釣り部」を発足し、定期的に楽しんでいます。

☑ 枚方公済病院について

診療所では困難な検査で診断をつけていただいたり、自宅(通院)では治療困難な患者様の入院治療を受け入れていただけたりと地域に密着し、小さな当院とも協力してただけて私共にとっても心強い病院です。



庄野クリニック 院長 庄野 真次先生

所在地：〒573-0162
大阪府枚方市長尾西町 2 丁目 10-20
☎ 072-808-7767
診療科目：内科、循環器科、呼吸器科



枚方公済病院 副院長
田中 満

いよいよ平成28年度の幕開けです。当院も40名あまりの新人を迎えました。皆さん方の施設でも新人教育が始まると思います。最近の若い方は（このような言い方をすると小生も年寄りになったと思いますが）多様な目標を持って就職してこられます。当院は公的病院なので雇用の安定を求める方が多いのですが、個人のスキルアップを目指す方もいらっしゃいます。病院業務は医療事故やミスを防ぐためにどんどんマニュアル化されています。しかし、マニュアルは必要最低限のもので必要十分なものではありません。ご承知のようにわれわれ医療人は患者さんという人間を相手にするわけですから、マニュアル一辺倒の対応では患者さんとの信頼関係は築けません。個人のスキルアップは知識や技術の習得だけではありません。周囲から信頼される人格形成も重要なポイントです。日本では従来からそれぞれの組織のカラーが重要視されてきました。学校では学風、企業では社風などと呼ばれ組織に属する人たちの人格形成に大きく影響してきました。当院も旧新香里病院、京阪奈病院が統合して8年が経ちました。そろそろ病院の理念「医療への貢献と奉仕」が病院のカラーとして定着し、新人の医療人としての人格形成の一助になればと願っています。

理念と基本方針

理念
医療への貢献と奉仕

基本方針

- 地域における中核病院として、快適な療養環境と高度な医療を提供する。
- 患者さんの立場を尊重した合理的かつ安全な医療を行う。
- 病院は働き甲斐のある職場を整備し、職員は知識と技術の研鑽に励む。
- 強く、優しく、頼れる病院を目指す。

Information

● 第3回枚方メディカルラリー優勝

1月31日（日）第3回枚方メディカルラリーに医師2名看護師2名が参加し当院が優勝致しました。（第1回も優勝しております）



● 日本心臓リハビリテーション学会

2月27日（土）日本心臓リハビリテーション学会第1回近畿地方会を主催しました。【参加者531名】



編集後記

世間ではよく「年齢を重ねるごとに涙もろくなる」と言われています。かくいう私も10代や20代の頃に比べ、あきらかに涙もろくなっています。映画、ニュース、テレビドラマ、書籍、はてはアニメのワンシーンでさえ涙を流す始末です。そこでなぜ人は「年齢を重ねるごとに涙もろくなる」のか、少し調べてみました。

その結果、私の中で一番しっくりきた理由が「共感の涙」です。年を重ねるごとに、楽しい経験、うれしい経験、つらく悲しい経験が増えていきます。すると他人に起こった出来事なのに、自分のことのように共感でき涙が流れるという訳です。この他、若い頃に比べ自己愛が減少し他人への共感する力が高まる、出産を機に涙もろくなる、老化により感情抑制がコントロール出来なくなる等ありましたがいまいちピンときませんでした。

理由を調べていた際に、一つ思い出したことがあります。去年、中学時代から付き合いのある友人との会話の中で、彼がテレビを見て涙を流したという話題になり、内容を聞いてみるとイカの産卵でした。その時はまったく理解出来なかったのですが、なるほどあれが老化により感情抑制がコントロール出来なくなったパターンだったのかと納得しました。

閑話休題、「年齢を重ねるごとに涙もろくなる」ことは自然なことであり、とてもステキなことだというのがわかりました。これからも涙もろい自分であり続けるよう、共感の涙をたくさん流せる人であり続けるよう日々過ごしていきたいと思います。

地域医療連携室 中村 輝之



国家公務員共済組合連合会
枚方公済病院

〒573-0153 大阪府枚方市藤阪東町1丁目2番1号
TEL 072 (858) 8233 FAX 072 (859) 1093
<http://kkh-hirakoh.org/>